様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ３０ 日現在

機関番号：１２６０３
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５２８４１３２

研究課題名（和文）イスラーム圏におけるイラン式簿記術の成立と展開

研究課題名（英文）Formation and development of the Persian bookkeeping system in the Muslim states

研究代表者
高松　洋一（Takamatsu, Yoichi）

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：９０３７６８２２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,500,000円

研究成果の概要（和文）：　16世紀サファヴィー朝下で執筆されたペルシア語簿記術指南書、キルマーニー著『簿記術論文』を講読し、簿記の記号・様式を説明した序論、帳簿実例を解説した本論第１部から第3部まで校訂・訳注を作成した。
　オックスフォード大学エドモンド・ハーツィック氏を招聘し、ワークショップ“Armenian and Persian Bookkeeping Systems: A Comparison”を開催、近世アルメニア人が複式簿記を採用しながら、イラン式簿記術から多くのペルシア語術語を借用していることを明らかにした。
　ルカ・パチョーリ会計史国際大会、マールブルク大学のスィヤーク・セミナーに研究メンバーを派遣した。

研究成果の概要（英文）：　1)　A critical edition and annoted Japanese translation of chapters on accounting techniques from Ghiyath al-Din Kirmani's Persian manuscripts of the treatise on accountancy in the early Safavid period (mid-16th century).
　2) International workshop on “Armenian and Persian Bookkeeping Systems: A Comparison” (TUFS, 23 March 2014).
　3) Participation in the III. International Conference on Luca Pacioli in Accounting History, III. Balkans and Middle East Countries Conference on Accounting and Accounting History (Istanbul, 18-22 June 2013) and “International conference and Summer course: Reading Siyaq! The secret script of Iranian Chanceries” at the Philipps-Universitat Marburg (19-23 August 2013).

研究分野：アジア・アフリカ史

キーワード：史料研究　簿記術　イスラーム史　中東　国際研究者交流

１．研究開始当初の背景

（１）研究代表者はこれまで、600 年以上の長きにわたり存続し、東欧から西アジア、北アフリカにまたがる領土を支配したオスマン朝（1299-1922 年）のアーカイブズ史料を、古文書学的、アーカイブズ学的手法に基づいて研究してきた。これらの史料は形態的に、一枚の料紙に作成された文書と、冊子体の帳簿とに分けられるが、文書に関しては、様式論を中心とした古文書学的な研究が 20 世紀初頭以来国際的にある程度蓄積されてきたと言える。ところがこれに対し、帳簿については、史料としての体系的な分析がほとんどなされないまま、部分的な数値のみが研究上利用されているというのが実情である。研究代表者はこうした事態に危惧をいだき、帳簿を正しく理解するためには、当時用いられていた簿記術を知ることが喫緊の課題であると考えるに至った。

研究代表者は、かねがねオスマン朝の帳簿に用いられている術語の多くがペルシア語起源であることに気付いていたが、同僚である研究分担者との議論を通じ、オスマン朝の簿記システムが、イラン、さらにはイスラーム化以降のインドにおいて用いられた簿記システムとほぼ同一であることに思い至った。すなわち 19 世紀に複式簿記が西欧から受容されるまでは、東はインドからイランを経て、西はオスマン朝支配下のアナトリアからアラブ地域、さらにバルカン地域にかけて、同一の簿記術が標準とされていたと言いうるのである。そこで応募者は、「スィヤーク」とも呼ばれる、この簿記術がオスマン朝によってイランの先行イスラーム諸王朝から受容された統治技術の一つであるという仮説のもと、それがいかに普及し、受容されたのかという問題について、オスマン朝史のみならず、イラン史の専門家も加えた「イラン式簿記術」についての共同研究を組織する必要を痛感した。

（２）以上のような問題意識をもって研究代表者が組織した「イスラーム圏におけるイラン式簿記術の展開：オスマン朝治下において作成された帳簿群を中心として」という共同研究は、大学共同利用機関法人・人間文化研究機構プログラム「イスラーム地域研究」東洋文庫拠点・平成 20 年度～24 年度の文部科学省委託事業「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」の公募研究として採択された。この共同研究は 4 年半で 30 回以上の研究会を重ねる一方、海外の研究者を招聘したセミナー、講演会を 11 回開催した。研究会では 14 世紀にイランで執筆され、オスマン朝下でも読まれたイラン式簿記術の指南書『スィヤークの学に関するファラクのための論文 Risāla-yi Falakīya』の２写本を比較しながら輪読し、訳注をイスラーム地域研究東洋文庫拠点のウェブサイト（http://www.tbias2.jp/falakiyya/contents.html）において順次公開しつつ、最終的には髙松洋一（編）『マーザンダラーニー著(14 世紀)　簿記術に関するファラキーヤの論説 Risāla-yi Falakīya dar ‘Ilm-i Siyāqat』共同利用・共同研究拠点イスラーム地域研究東洋文庫拠点、 2013 年として刊行した。また別に成果報告書として論文集、髙松洋一(編)『イラン式簿記術の発展と展開　イラン、マムルーク朝、オスマン朝下で作成された理論書と帳簿』東洋文庫イスラーム地域研究資料室・東京(2011)を刊行したが、同書は『史学雑誌』(史学会)2012 年 6 月号の「2011 年の歴史学界 回顧と展望（イスラーム時代・近現代）」の冒頭で詳しく取り上げられるなど、学界の高い評価を得ることができた。

本研究課題「イスラーム圏におけるイラン式簿記術の成立と発展」は、2012 年度をもって終了した上記の共同研究の成果を受け、それをさらに深化・発展させることを目指すものである。

２．研究の目的

（１）社会経済史や財政史など数量的な歴史研究を行なうためには、史料として帳簿を利用することが必須である。しかし今般のイスラーム史研究にあって、帳簿の史料学的研究は国際的に未開拓であり、とりわけ帳簿の理解に不可欠な簿記術に関する研究は喫緊の課題である。

近代に複式簿記に駆逐されるまで、イスラーム圏でスタンダードであったのは、モンゴル支配下の 14 世紀イランで確立されたイラン式簿記術である。この簿記術は、東はムスリム諸王朝支配下のインド、西はオスマン朝を通じてアナトリア、バルカン、さらにはアラブ地域においても在来の簿記に取って替わることとなった。本研究は、イラン式簿記術の諸原理を体系的に解明し、帳簿の内容を正確に把握して数量的歴史研究の基盤を提供することを目的とする。

３．研究の方法

（１）イラン式簿記術は、先行研究が非常に乏しい上に、西欧に起源をもつ現代の複式簿記等とは全く異なる原理に立っているため、これを理解するのはきわめて困難である。そのため簿記術の指南書を一つ選び、研究会での講読および議論を通じて、イラン式簿記術の正確な理解に努めることとした。

モンゴル支配下のイランで成立した簿記術指南書については、これまで講読の経験を積んできたため、本研究では、後世の未公刊の指南書、16 世紀のサファヴィー朝シャー・タフマースプ時代に著されたギヤース・アッディーン・アブー・イスハーク・キルマーニー著『簿記術論文』を取り上げることとした。

最も古い書写年代（1064/1653-54 年）をもつ同書のマルアシー図書館所蔵の写本 MS.Mar‘ashī 8140 を底本としつつ、イラン議会図書館所蔵の２写本 MS.Majlis 6544 お

よびMS.Majlis 3117、マシュハド・レザー廟図書館所蔵の写本MS. Āstān-i Quds 7148の計4写本を相互に対照し、ペルシア語校訂テキストと日本語訳および注釈を作成した。さらに研究会では既に訳注を行なったマーザンダラーニー著『簿記術に関するファラキーヤの論説』とも比較しつつ、独特な専門用語の訳語の一つ一つについて議論を重ねた。

４．研究成果

（１）2013～2016年度にかけ、公益財団法人・東洋文庫において、本研究のメンバーを中心に公開でおよそ月に１回、定期研究会を組織した。合計 37 回開催した定期研究会において、ギヤース・アッディーン・アブー・イスハーク・キルマーニー著『簿記術論文』のうち簿記の具体的な記号・様式の用法を説明した序論第7章から講読を開始し、序論の最終第 15 章までをまず読み終え、校訂テキストと訳注を作成した。続いて帳簿の実例を解説した本論の講読に移り、第１部の「日誌」、第2部「タウジーフ帳簿」、第3部「アワールジャ帳簿について」の途中まで校訂・訳注作成の作業を進めることができた。

また校訂・訳注作成の作業を通じ、底本としたMS.Mar'ashī 8140とMS.Āstān-i Quds 7148、MS.Majlis 3117の３写本が同系統、書写年代不詳のMS.Majlis 6544が異同の多い別系統に属することも明らかとなった。

上述した指南書の序論第 7 章および第9~15 章のペルシア語校訂テキストと日本語訳および注釈については、『アジア・アフリカ言語文化研究』第 94 号所収の渡部良子、阿部尚史「16世紀サファヴィー朝期のペルシア語財務・簿記術指南書：ギヤースッディーン・キルマーニーの簿記術論文・序章簿記術論校訂・日本語訳注」（アジア・アフリカ言語文化研究所、2017年刊行予定、掲載決定済み）として成果を世に問うことができた。

（２）定期研究会とは別に、オックスフォード大学のエドモンド・ハーツィック氏を招聘し、イラン式簿記術と近世アルメニア人の簿記術との比較を目的として、“Armenian and Persian Bookkeeping Systems: A Comparison”と題する国際ワークショップを2014年3月23日、東京外国語大学・本郷サテライトで開催した。ワークショップでは、アルメニアの簿記術のさまざまなテクニックが具体的に解説され、複式簿記を採用している独自性とペルシア語から多くの術語を借用している同時代性が明らかとなった。

（３）2013年6月18–22日にトルコのイスタンブル工科大学で開催されたルカ・パチョーリ会計史国際大会（III. International Conference on Luca Pacioli in Accounting History, III. Balkans and Middle East Countries Conference on Accounting and Accounting History）に研究代表者の髙松が参加し、各国の会計史の専門家との意見交換、出版物交換を行なったほか、同年8月19–23日にドイツのマールブルク大学で開催されたイラン式簿記術のスィヤークに関するセミナー“International conference and Summer course: Reading Siyaq! The secret script of Iranian Chanceries”に研究協力者の阿部尚史を派遣し、海外におけるイラン式簿記術の研究状況、わが国の研究水準の高さを把握することができた。

このほか毎年数次にわたって研究代表者、連携研究者、研究協力者らのメンバーを、海外の学会に派遣して成果報告を行う一方、イランやトルコをはじめとする各地の機関において所蔵されている写本、帳簿などの資料調査を遂行した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　13件）

① 髙松洋一、「一八世紀オスマン帝国における紅海交易の一断面―問答集『ジッダ港の統治の秩序のために準備された諸留意点』」、川分圭子・玉木俊明編著『商業と異文化の接触：中世後期から近代におけるヨーロッパ国際商用の生成と展開』、査読無、2017、pp.699-729.

② 近藤信彰、「18 世紀スィンド地方におけるペルシア語文化と地方社会――詩人伝『詩人たちの諸論攷』を中心に」、太田信宏編『前近代南アジア社会におけるまとまりとつながり』、査読無、2017、pp.317-329.

③ 髙松洋一、「オスマン朝のハットゥ・ヒュマーユーンについて」、『歴史と地理』、査読無、No.699、査読無、2016、pp.26-33.

④ TAKAMATSU, Yoichi, “Evliya Çelebi Seyahatnâmesi'ne Göre Bitlis'te “Abdal Han'ın Kütüphanesi””, *Journal of Turkish Studies*, 査読無, No.44, 2015 pp.419-436.

⑤ KONDO, Nobuaki, “The Shah ‘Abd al-‘Azim Shrine and its /Vaqf/ under the Safavids” , *Mapping Safavid Iran*, 査読無、2015, pp.41-65.

⑥ 髙松洋一、「勅令の「裏側」を読む―大宰相府伝来の勅令正文に関する一考察」、近藤信彰編『近世イスラーム国家史研究の現在』、査読無、2015、pp.299-328.

⑦ 齋藤久美子、「オスマン朝のクズルバシュ対策」、近藤信彰編『近世イスラーム国家史研究の現在』、査読無、2015、pp.107-120.

⑧ TAKAMATSU, Yoichi, "Ottoman Population Registers of Late 18th- and 19th- Century Istanbul as a Source for the Study of the Greek Orthodox (Rum) Population", Hidemitsu KUROKI ed. *Human Mobility and Multi-ethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies 1: Tehran, Aleppo, Istanbul, and Beirut.* Fuchu: ILCAA, 査読無、2015、pp.71-84.

⑨ KONDO, Nobuaki, "Migration and Multiethnic Coexistaence in Qajar Tehran", Hidemitsu KUROKI ed. *Human Mobility and Multi-ethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies 1: Tehran, Aleppo, Istanbul, and Beirut.* Fuchu: ILCAA, 査読無、2015、pp.5-25.

⑩ KONDO, Nobuaki, "The Lives of Qabalahs: Annotation, Transcription and Registration of Documents in Early Modern Iran", N. Balbir & M. Szuppe eds. *Lecteurs et copistes dans les traditions manuscrites iraniennes, indiennes et centrasiatiques*,査読有、2014、pp.561-575.

⑪ KONDO, Nobuaki, "Between Tehran and Sultaniyya: Early Qajar Rulers and their Itinerates", David Durand-Guedy ed. *Turko-Mongol Rulers, Cities and City Life*, Leiden&Boston:Brill, 査読無、2013、pp.385-416.

〔学会発表〕（計　11 件）

① KONDO, Nobuaki, "Making a Persianate Society: Literati Migration to Mughal India", Consortium for Asian and African Studies Symposium "Crossing the Boundaries: Asian and Africans on the Move", 2016 年 10 月 22 日、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（東京都・府中市）

② 近藤信彰、「19 世紀後半テヘランの宗教的少数派――シャリーア法廷記録より」、日本中東学会第 32 回年次大会、2016 年 5 月 15 日、慶應義塾大学三田キャンパス（東京都・港区）

③ TAKAMATSU, Yoichi, "I. Mahmud' un Istanbul' da Kurdugu Üç Kutuphane: Ayasofya, Fatih ve Galatasaray Kütüphaneleri", XVIII. Yüzyıl Osmanlı Kitap Koleksiyonerleri Bilgi Üretimi ve Dağılımı, Koç Üniversitesi Anadolu Medeniyetleri Araştırmaları Merkezi, 2015 年 12 月 25 日、イスタンブル（トルコ）

④ KONDO, Nobuaki, "State and Shrine in Iran: Waqf Administration of the Shah 'Abd al-'Azim Shrine under the Qajars", The Fourth International Symposium of Inter-Asia Research Networks "Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations" , 2015 年 12 月 5 日、東洋文庫（東京都・文京区）

⑤ KONDO,Nobuaki, "Multiconfessionalism in 19th Century Iran: Jews in Qajar Tehran, a Reappraisal, Seminar für Arabistik/ Islamwissenschaft, am Orientalischen Institut, Martin-Luther-Üniversität, 2015 年 11 月 23 日、ハレ（ドイツ）

⑥ 髙松洋一、「オスマン朝の勅令起草過程で作成される文書類型について ―大宰相府と財務長官府の協働の観点から―」、東洋史研究会大会、2015 年 11 月 3 日、京都大学文学部（京都府・京都市）

⑦ 髙松洋一、「マフムト 1 世による Ayasofya 図書館の蔵書形成 ―歴史書を中心として」、日本オリエント学会、2015 年 10 月 18 日、北海道大学文学部（北海道・札幌市）

⑧ TAKAMATSU, Yoichi, "Ayasofya Kütüphanesi ve Koleksiyonu", Lalenin ve İsyanın Gölgelediği Yıllar I. Mahmud Dönemi. 1730¦1754, Mimar Sinan Güzel Sanatlar Üniversitesi, 2014 年 9 月 26 日、イスタンブル（トルコ）

⑨ KONDO, Nobuaki, "Judicial Reform and Sharia in 19th Century Iran", NIHU Program for Islamic Area Studies, Fourth International Conference "New Horizons in Islamic Area Studies: Encounters, Reflections and Collaborations", 2013 年 11 月 4 日、ラホール（パキスタン）

〔図書〕（計　2 件）

① 近藤信彰（編）、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、『近世イスラーム国家史研究の現在』、2015、397p.

② KONDO, Nobuaki ed., ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies, *Mapping Safavid Iran*, 2015, 246p.

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
髙松 洋一（TAKAMATSU, Yoichi）
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授
研究者番号：90376822

(2)研究分担者
近藤 信彰（KONDO, Nobuaki）
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授
研究者番号：90274993

(3)連携研究者
齋藤 久美子（SAITO, Kumiko）
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員
研究者番号：90432046

(4)研究協力者
阿部 尚史（ABE, Naofumi）
東京大学中東地域研究センター・特任助教

熊倉 和歌子（KUMAKURA, Wakako）
早稲田大学イスラーム地域研究機構・研究助手

清水 保尚（SHIMIZU, Yasuhisa）
アンカラ大学言語歴史地理学部・研究員

渡部 良子（WATABE, Ryoko）
東京大学文学部・非常勤講師